

# 日本列島と周辺諸言語の類型論的・比較歴史的研究—アイヌ語における名詞修飾—

アンナ・ブガエワ(国立国語研究所) bugaeva@ninjal.ac.jp

## 1. はじめに

Comrie (1996, 1998, 2010) と松本 (1997) は、日本語や韓国語のような、関係節構造 (relative clauses: RC) と名詞補文構造 (clausal noun complements: NC) が同じ構造である言語のクラスの存在を主張している。この「汎用的な名詞修飾構文」(general noun-modifying clause construction: GNMCC) の主な特徴は、RCとNCがその具現において表層的類似を示すこと、そして、RCにおいて抽出が生じた形跡が欠けていることである (Matsumoto, Comrie & Sells; in prep.)。この現象に対するもうひとつの見解については、Whitman (2013) を参照されたい。

### 汎用的な名詞修飾構文 (GNMCC) を有する典型的な言語: 日本語

- ① [本を買った] 学生 [主語/買い手] < RC相当 >
  - ② [学生が買った] 本 [目的語/商品] < RC相当 >
  - ③ [学生が本を買った] 店 [付加詞/場所] < RC相当 >
  - ④ [本を買った] 知らせ < NC相当 >
  - ⑤ [本を買った] おつり < NC相当 >
  - ⑥ [誰かがドアをたたく]音 < PNC相当 >
- PNC: perception noun complements (知覚名詞補文)

GNMCC

Comrie (1996: 1079)によると、日本語タイプ、つまりGNMCCはアジアの諸言語に広がっており、少なくとも、アイヌ語、日本語、韓国語、中国語、そしておそらく、シナ・チベット語族、ドラビダ語族、チュルク諸語の一部(ただし、トルコ語はのぞく)、タイ語、クメール語などもGNMCCを持つという。

本稿では、北海道南部のアイヌ語のデータに基づき、アイヌ語はRCとNCを明らかに区別するため、GNMCCを持たないことを示す。また、アイヌ語では、PNC (ii) とNC (iii) にも形式的な区別がない。

さらに、アイヌ語の関係節化は常にNPの欠落を伴うが、項以外の関係節化の際には、関係節中に欠落したNPを判断する為の要素が保持される。したがって、典型的なGNMCCとは異なっている。

以下はComrie (1998: 54-5) で挙げられたアイヌ語の例である ((ii) の形態素境界は筆者により修正)。

1

- (i) *taan aynu koyki yuk* RC  
その 人 獲る 鹿  
'the deer that that man hunts」「この男が獲った鹿」
- (ii) *kamuy ek hum-i* PNC  
bear come perception  
熊 来る 音-POSS  
'the perception that the bear came」「神様が来た感じ」
- (iii) *eraratki patek e=ki asur-uhu* NC  
浮気 ばかり 2SG.A=する 噂-POSS  
a=nu kor an=an  
IND.A=聞く と 存在する.SG=IND.S  
「あなたが(他の女のひと)遊んでばかりいた噂を聞いている。(NV137)

## 2. アイヌ語の基本特性

- SOV、膠着的・複統合的、抱合を持つ、主要部標示型
- 名詞項(名詞・代名詞)を示す格標識を持たない。
- 付加詞は後置詞によって示される。
- 文法関係は、(i) 動詞上の義務的な相互参照(人称・数の接辞)、(ii) 節内でのAとOの相対的な位置によって区別される。
- 動詞における相互参照の配列は、人称・数によりタイプが異なる: 主格対格型・中立型・三立型
- 代名詞項は普通は省略 (pro-dropping) される。
- 動詞句と名詞(所有)句の両方で、ゼロ照応する傾向がある。
- 修飾語は常に前置される。
- 形容詞は自動詞の下位クラス

### 2.1 動詞句—自動詞構文 対 他動詞構文—

自動詞述語にはSが(1)、他動詞述語にはAとOが標示される(2)。3人称の標識はゼロである((2a)におけるO、(2b)におけるA)。S/A/Oは「裸の名詞」として現れる。

2

付加詞は動詞に相互参照されない(1)。後置詞の前の名詞はほとんどの場合、or(-o)「(～の)所」などの関係名詞を伴う。

- (1) *[cóka]s aynu or un inkar=as* 自動詞構文  
1PL.EXC ヒト ところ ALL 見る=1PL.EXC.S  
「私達(私と彼/彼女/彼ら)は人々の場所を見た」(O1)
- (2)a. *[cóka]A [aynu kotan]o ci=nukar rusuy* 他動詞構文  
1PL.EXC ヒト 村 1PL.EXC.A=見る DESID  
「私達(私と彼/彼女/彼ら)はアイヌの村を見たかった」(O1)  
b. *[unarpe]A [[cóka]o un=nukar* 他動詞構文  
おば 1PL.EXC 1PL.EXC.O=見る  
「(彼/彼女/彼らの)おばは私達(私と彼/彼女)を見た」(作例)

後置詞には、与格 *e-un*「へ」、具格 *ani*「で」、共格 *tura/tura-no*「と(一緒に)」のような明らかに他動詞起源のものがあり、それらは名詞句なしで用いられることもある。例えば、(3) では *ani*「と一緒に」(< *ani*「手に持つ」)の前の *itanki* を省略することも可能であり、その場合、少なくとも歴史的に「(その腕を)持って」というゼロ照応の解釈になりうる。

- (3) *itanki huraye hine (itanki) ani i=ko-i-puni*  
腕 洗う て 腕 INST IND.O=to.APPL-APASS-上げる  
「彼女は腕を洗い、(腕で)/(それ)で私に食べものを出した」(O1)

### 2.2 名詞句の構造—名詞修飾句 対 所有句—

• 名詞修飾句:[名詞+主要部名詞]、修飾語と主要部名詞の並置(4)。

- (4) a. *sisam uwepeker* b. *kamuy rus*  
和人 昔話 熊 皮  
「日本の昔話」 「熊の毛皮」(T1 33)

3

• 所有句(譲渡不可能のみ): [所有者名詞+主要部名詞]、主要部標示型(5)。所有者名詞句の位置には名詞あるいは代名詞が現れる。主要部名詞(被所有者)には、所有者の人称・数を示すA系列の接頭辞が付く。主要部名詞にはさらに、所有接尾辞 *-hv/-V(hv)* が付く。被所有者を表す名詞には所有者が義務的に標示されるので、所有者名詞句が文脈上明らかであれば省略される。

- (5) a. *ku=sapa-ha* b. *ci=setur-u(hu)*  
1SG.A=頭-POSS 1SG.EXC.A=背中-POSS  
「私の頭」 「我々の背中」
- c. *e=haw-e(he)* d. *kamuy Ø=rus-i(hi)*  
2.SG.A=声-POSS 熊 3.A=毛皮-POSS  
「お前の声」 「熊の毛皮」

### 3. アイヌ語における名詞修飾—関係節構造(RC) 対 名詞補文構造(NC)—

• RC (6)は、通常の名詞修飾句と同じ構造を持つ((4)参照)。  
• NC (7)は、所有句と同じ構造を持つ((5)参照)。所有接尾辞が照応するのは補文節全体である。

- (6) *[a=raski a] inaw opitta... hácir wa okay*  
IND.S=立てる.PL PERF イナウ全部 倒れる て 存在する.PL  
「私が(狩小屋に)立てたイナウ(木幣)がすべて倒れてきた」(AB)

• NCの主要部名詞には、(a) 内容(iii)、(b) 知覚(ii)、(c) 空間・時間的な関係(7)を表すごく限られた意味の名詞だけが用いられる(奥田 1989)。

- (7) *[arpa=an] utur-u tuyma h\_i kusu si-musis-ka=an*  
行く.SG=IND.S 間-POSS 遠い の ため REFL-咳払い-CAUS=IND.S  
「しばらく行っていなかったので、咳払いをすると」(K8010281.UP.052)

• RCとNCの類似点は、「節」が名詞化されていないことである。ただし、日本語と同様に、節内に発話内行為を表す終助詞 *wa* や *so*「よ」、あるいは命令形が用いられることはない。

4

## 4. アイヌ語の関係節化

- アイヌ語では、譲渡可能所有者を除いて、Keenan & Comrie (1977) の関係節化可能性の階層 (SU > DO > IO > OBL > GEN > OCOMP) のあらゆる位置が関係節化される。
- 関係節化では常に、関係節化されるNPの欠落(厳密に言えば、Givón (2012: 21) の言うゼロ照応)が生じる。述代名詞なし。
- 以上の点でアイヌ語は日本語と似ているように見える。
- しかし、アイヌ語と日本語の似かよりは表面的なものである。
- 日本語と違いアイヌ語では、主節において現れる全ての要素が関係節でも完全に保持される場合にのみ、NPの欠落が生じる。すなわち、欠落したNP以外の要素が主要部名詞と節との関係を理解するための補助的手段と成るのである。

表1. 関係節化のタイプと主節での各対応要素

| 関係節化のタイプ                  | 欠落NPを判断する材料の関係節での保持             | 主節での構造的な対応要素  |
|---------------------------|---------------------------------|---|
| [1] 項の関係節化                | 保持なし                            | A/S/O項の格標示の欠如と、主節動詞上での3人称のゼロによる相互参照とに相関する                   |
| [2] 項以外の関係節化              | 保持あり                            | 主節動詞上での項以外への相互参照の欠如に相関する                                    |
| [2a] 具格/共格/与格/程度の付加詞の関係節化 | 後置詞の保持(残存)                      | 主節で各後置詞が独立して現れることができることと相関する                                |
| [2b] 所有者の関係節化             | (被所有者上の)所有接尾辞の保持                | 主節での所有構造の主要部標示構成と相関する                                       |
| [2c] 処格/向格の付加詞の関係節化       | 関係名詞 <i>or-o</i> 「～のところ」と後置詞の保持 | 主節でほとんどの名詞が関係名詞 <i>or-(o)</i> 「(～の)所」を伴うことなく後置詞を取れないことと相関する |

5

### 4.1. 項の関係節化: 保持なし

- 自動詞主語の関係節化(S)
- (8) *[cise soy pak-no arki] utar anak-ne*  
家 外 まで-ADV 来る.PL 人々 TOP-COP  
*a=ahun-ke yak pirka wa*  
IND.A=入る-CAUS ならば よい FIN  
「家まで来た男たちは、入れてもよい」(AB 95)

- 他動詞主語の関係節化(A)
- (9) *rapok-ke [kem sawot] pe [tumi sawot] pe payeoka.*  
間-POSS 飢饉 逃れる もの 戦争 逃れる もの 通る.PL  
「その間に、飢饉を逃れてくる者、戦争を逃れてくる者が通りかかった。」(K8109193.UP.128)

- 他動詞目的語の関係節化(O); 充当動詞の使用も可(11)
- (10) *[na u-oyak ta oka a=hok] okkay-po utar*  
もっと REC-別のところ LOC 存在.PL IND.A=雇う 男-DIM PL  
*ka po-kor pa wa,*  
も 子供持つ PL て  
「それぞれのところで雇った若者たちにも子供ができて」(K8010291UP)
- (11) *katkemat [a=e-hotke] usi kar wa i=kor-e*  
奥さん IND.A=at.APPL-寝る 場所 作る て IND.O=持つ-CAUS  
「奥さんは私に私が横になる場所(=寝床)を支度してくれました」(AB 400)

略号一覧  
A = transitive subject or possessor 他動詞主語または所有者; APASS = antipassive 逆受動; APPL = applicative 充当; ADV = adverbial 副詞または従属文; ALL = allative 方向格; CL = classifier 類別; COP = copula コピュラ; DESID = desiderative 願望; DIM = diminutive 指小; EP = epenthetic consonant 挿入子音; EXC = exclusive 除外; FIN = final particle 終助詞; IND = indefinite 不定人称; INST = instrumental 具格; LOC = locative 場所格; O = object 目的語; PERF = perfect 完了; PL = plural 複数; POSS = possessive 所属; S = intransitive subject 自動詞主語; SG = singular 単数。  
注  
不定人称の形式(IND)には4つの機能がある: (i) 厳密な意味での不定人称(=非人称)、(ii) 1人称包括複数、(iii) 2人称単複の敬称、(iv) 話者指示(logophoric)人称。(iv)の用法は、物語が伝聞談話の構造を持っていることから、物語の語りの中で一般的に見られる。便宜的に、話者指示機能での不定人称の形式は、ロシアでは「IND」としつつ、翻訳では「私」としている。

6

## 4.2. 項以外の関係節化: 保持あり

### 4.2.1 具格/共格/与格/程度の付加詞の関係節化: 後置詞の保持

- (12) *[ani OCA a=ku] CAWAN sine-p NAGASI*  
INST お茶 IND.A=飲む 茶碗 一つもの.CL 流し  
*corpok ta a=nuyna* 例文(3)参照  
下 LOC IND.A=隠す  
「お茶を飲む茶碗をひとつ、流しの下に隠しておいた」(K8108012UP)

- (13) a. *a=ona [sorekusu pak-no nispa isam] nispa ne.*  
IND.A=父.POSS それこそ まで-ADV 長者 存在しない長者 COP  
「父は並ぶものがない長者だった」lit.「私の父は(その者)まで(の)長者のいなかった長者だ(K8106233UP.002)「[ ]まで(の)長者jがいなかった」長者i」 主節(基礎構文)参照:  
b. *[sorekusu (ne) nispa pak-no nispa isam*  
それこそ この 長者 まで-ADV 長者 存在しない  
「その長者ほど(の)長者がいない。」(作例)

### 4.2.2 所有者の関係節化: (被所有者上の)所有接尾辞の保持

- (14) a. *[cikir-ihitanne] kikir b. kikir cikir-ihitanne*  
動物の足-POSS 長い 虫 動物の足-POSS 長い  
「足の長い虫」(T1 189) 「虫の足が長い。」

### 4.2.3 処格/向格の付加詞の関係節化: 関係名詞と後置詞の保持

- (15) a. *[or-o ta cep poro-n-no hemesu] pet*  
所-POSS LOC 魚 沢山-EP-ADV 上がる 川  
「魚がたくさん上がる川」(ST1 171) 主節(基礎構文)参照:  
b. *pet or ta cep poro-n-no hemesu.*  
川 所 LOC 魚 沢山-EP-ADV 上がる  
「川に魚がたくさん上がる」

7

## 5. まとめ

本発表では、アイヌ語の名詞修飾構造について議論し、以下のような指摘を行った。

- (1) アイヌ語には日本語と異なり、汎用的名詞修飾構文 (GNMCC) がない。つまり、アイヌ語の名詞修飾構造は名詞修飾句のパターンをとる構造(関係節構造)と、所有句のパターンをとる構造(名詞補文構造)の二つに明確に分かれている。
- (2) 関係節構造では関係節内の動詞、保持された後置詞、被所有者名詞などを、名詞補文構造ではその主要部名詞を見ることにより、どのような文法関係にある名詞が修飾されているのか理解することができる。これには、アイヌ語の持つ「主要部標示型」な性質と「複統合的」な性質が大きな役割を果たしている。

出典と参考文献  
AB BUGAeva, ANNA (2004) GRAMMAR AND FOLKLORE TEXTS OF THE CHITOSE DIALECT OF AINU (IDIOLECT OF ITO ODA). ELPB PUBLICATION SERIES A-045. SUITA: OSAKA GAKUIN UNIVERSITY.  
K NAKAGAWA, HIROSHI & BUGAeva, ANNA (2012) A WEB-ACCESSIBLE CORPUS OF FOLKTALES OF THE SARU DIALECT OF AINU BY MRS. KIMI KIMURA (1900-1988). ELDLP, UNIVERSITY OF LONDON. <http://lah.soas.ac.uk/projects/ainu/>  
NV NEVSKII, NIKOLAI (1972) AJNSKIJ FOLKLOR [AINU FOLKLORE]. MOSKVA: NAUKA.  
O1 小田伊ト (1908-2000), アイヌ語千歳方言の話者, 筆者のフィールドノートより.  
ST1 佐藤知己 (2008) 『アイヌ語文法の基礎』 東京: 大学書林.  
T1 田村すず子 (1988) 『アイヌ語』 亀井孝, 河野六郎, 千野栄一 編『言語学大辞典』 東京: 三省堂.  
TS1 田村すず子 (1984) 『アイヌ語音声資料』 1. 東京: 早稲田大学言語学教育研究所.  
COMRIE, BERNARD. 1996. THE UNITY OF NOUN MODIFYING CLAUSES IN ASIAN LANGUAGES. PAN-ASIATIC LINGUISTICS: PROCEEDINGS OF THE FOURTH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON LANGUAGES AND LINGUISTICS, JANUARY 8-10, 1996, VOLUME 3, 1077-1088.  
COMRIE, BERNARD. 1998. RETHINKING THE TYPOLOGY OF RELATIVE CLAUSES. LANGUAGE DESIGN 1: 59-86.  
COMRIE, BERNARD. 2010. JAPANESE AND THE OTHER LANGUAGES OF THE WORLD. NINJAL PROJECT REVIEW 1: 29-45.  
GIVÓN, TALMY (2012) TOWARD A DIACHRONIC TYPOLOGY OF RELATIVE CLAUSE. IN: COMRIE, BERNARD & ESTRADA-FERNÁNDEZ, ZARINA (eds) RELATIVE CLAUSES IN LANGUAGES OF THE AMERICAS: A TYPOLOGICAL OVERVIEW (TSL 102). AMSTERDAM, PHILADELPHIA: JOHN BENJAMINS, 3-25.  
KEENAN, EDWARD L. & COMRIE, BERNARD (1977) NOUN PHRASE ACCESSIBILITY AND UNIVERSAL GRAMMAR. LINGUISTIC INQUIRY Vol. 8, No.1: 63-99.  
MATSUMOTO, YOSHIKO. 1997. NOUN-MODIFYING CONSTRUCTIONS IN JAPANESE: A FRAME-SEMANTIC APPROACH. AMSTERDAM: JOHN BENJAMINS.  
MATSUMOTO, YOSHIKO, COMRIE, BERNARD, AND SELLS, PETER. IN PREPARATION. NOUN- MODIFYING CLAUSE CONSTRUCTIONS IN LANGUAGES OF EURASIA: RESHAPING THEORETICAL AND GEOGRAPHICAL BOUNDARIES.  
奥田統己 (2001 [1989]) 「日本語とアイヌ語における連体修飾うと文の名詞化」『早稲田大学言語学教育研究所紀要』39. (再録: 『アイヌ語考 文法 I』第5巻, 243-256頁. 東京: ゆまに書房.)  
WHITMAN, JOHN (2013) THE PREHEAD RELATIVE CLAUSE PROBLEM. WAFI 2012 WORKING PAPERS. CORNELL UNIVERSITY.

8